

には、リンクがあります。は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

事業所名 グループホーム **蔵の家**

日付 平成17年1月31日

評価機関名 有限会社
アウルメディカルサービス

評価調査員 薬剤師・介護支援専門員

痴呆介護経験8年、障害者、老人介護支援

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

講評 全体を通して(特に良いと思われる点など)
職員は入居者の性格、現在の状態、家族構成などをよく把握している。行動を制限することなく、しっかりと見守り、的確な対応が行われている。
「入居者には、少しでも歩いてもらいたい。」との考えから、出来るだけ車椅子を用いず、押し車等が活用されている。トイレ誘導はきめ細かに行われている。
月2回は専門の講師に来てもらい、音楽にあわせて体を動かす音楽療法も実施されている。
生活のリズムにあわせて一寸した外出を大事にしている。関連施設や周辺の散歩などを通じ他の施設の人や、地域の人との交流が持たれている。

楽しい行事は毎月のように行われる。
夏祭りは関連施設と一緒にいき、近くの小学生や地域の人たちも参加して盛大に行われる。また、秋に行う敬老会では入居者の希望を聞いて、行きたいところへのお出かけも試みられている。

問題点の把握、改善にも努力を惜しまず積極的に取組まれ、法人としてのバックアップもしっかり行われている。
職員は、チームケアのレベルアップをめざし、積極的に勉強会に参加している。

改善の余地があると思われる点
構造的に見守りのしにくい箇所が若干見受けられました。台所の壁面に窓を開閉されるなど早速に改善されました。職員の位置なども工夫され、より見守りのし易い環境作りを期待します。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<p>記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か 「こころゆたかに、すこやかに。」が、法人としての理念である。 生まれたからには、誰もが幸せに満ちた人生を生きてほしい。力強く重ねてきたその年輪を、大きな尊厳と誇りで満たして欲しい。 1日の終わりに、また明日が待ち遠しくなるような、そんな暮らしを支援していきたい。と願って、入居者が少しでも楽しく快適に暮らせるよう努力している。</p>			

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<p>記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 入居者にとっての現実を大切に、出来るだけ要望に沿うように対応している。入居者の帰宅への希望等についても、家族と協力して実施するようにしている。 また、心穏やかに過ごせるよう常に笑顔で接し、日常の買い物や外出にも寄り添う姿勢を心がけている。</p>			

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<p>記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 居室やグループホーム周りの掃除、手入れ、畑での園芸栽培。洗濯、料理やお菓子作りなどを通じて、入居者それぞれの役割作りをすすめている。各居室には入居者の選んだのれんが掛けられ、適度な目隠し、アクセントとなっている。</p>			

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<p>記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 転倒の危険のある入居者には、歩行中、椅子やベッドへの移乗時、夜間のトイレ介助時のほか、寝るまで傍に付き添うなど特に注意をしている。また、ベッドを低めにしたり、マットや畳も利用し入居者の状態に応じた生活作りも工夫している。市内のグループホーム同士で勉強会を開き、レベルアップにも努めている。</p>			